

3観点の理解を深める

ルーブリックを使った評価

児童・生徒の力を高めるためのアプローチ

児童・生徒の力を 高めるための

この冊子は
学校での研修や
個人の学習のために
作成しました。
ただ、3人以上で協働して
学べるように構成しています

評価



和歌山大学教育学部
附属中学校

学校まるごとオンライン合同研修プロジェクトチーム制作
2020年12月発行

今回の研修のねらい

新しい学習指導要領¹に関して、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（令和2年3月国立教育政策研究所教育課程研究センター）の総説には、次のような見出しの解説があります。「学習評価の意義」に関して「（1）学習評価の充実（2）カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価（4）学習評価の改善の基本的な方向性」です。これによると「学習評価」を児童・生徒の成果を本人及び保護者に伝えるためだけにおこなうのではなく、児童・生徒の力を高めるために適切な評価を与えることが大切であると読み取れます。したがって、私たちが学習評価についての考え方を丁寧に学ぶことは、授業の質が変わり、それに伴って児童・生徒の力を高めることにつながります。

新しい学習指導要領が実施されることに関して、学校現場では「4観点から3観点になることは、これまでとはどんな違いがあるのか」「主体的に学ぼうとする態度をどのように評価していけば良いのか」「3観点の評価からどのように評定に関連づければ良いのか」といった声²が聞こえてきました。

今回「新しい評価」について多くの先生方と一緒に学ぶことができる研修を企画しました。これまでの先生方の経験を活かして、協働しながら「児童・生徒の力を高めるための評価」とはどのようなものかについて考える研修です。

また、全国の先生方に呼びかけて、今回の研修を準備するためのプロジェクトチームを結成しました。3ヶ月間オンラインでミーティングしながら、このブックの課題や資料の作成を行いました。

¹ 学習指導要領の実施時期：幼稚園（2018年度）、小学校（2020年度）、中学校（2021年度）、高等学校（2022年度）、特別支援学校幼稚園部（2018年度）、特別支援学校小学校部（2020年度）特別支援学校中学校部（2021年度）特別支援学校高等部（2022年度）

² 本校で2020年9月23日におこなった教育研修後のアンケート

このブックの説明と研修の流れ

<このブックの説明>

- ・ 1人で学ぶというよりも、他の先生方と考えを交流することで学びを深める構成になっています。
- ・ 校種に関係なく、新学習指導要領の考え方に基づいた評価について学べるようになっています。
- ・ 研修会がスムーズにいくように、参加者には事前にこのブックを配布しておいてください。
- ・ このブックには「課題」とそれを解決するための「資料」があります。
- ・ もっと知りたい方のために「補助資料」もありますので、研修会後の時間があるときに学びを続けてください。

<研修の流れ>

1) ジグソー型の研修になっていますので、事前に3つのグループに分かれて座ってください。

- Aグループ（3観点の理解を深める）
- Bグループ（ルーブリックを使った評価）
- Cグループ（児童・生徒の力を高めるためのアプローチ）

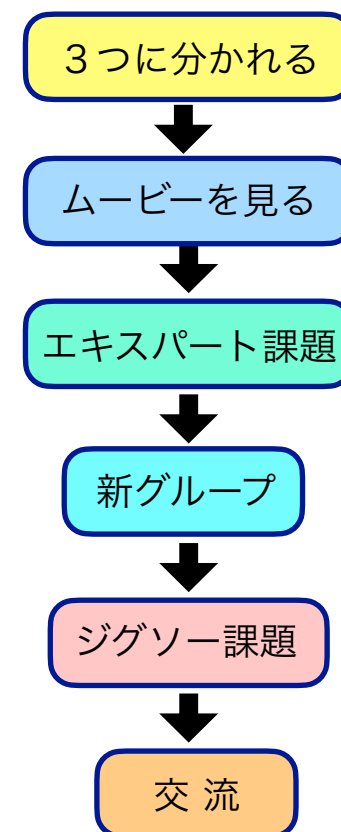
2) はじめにムービーを見て、本研修の目的を把握してください。（20分）

3) グループごとに資料を参考にしながら、エキスパート課題を解決してください。（30分）

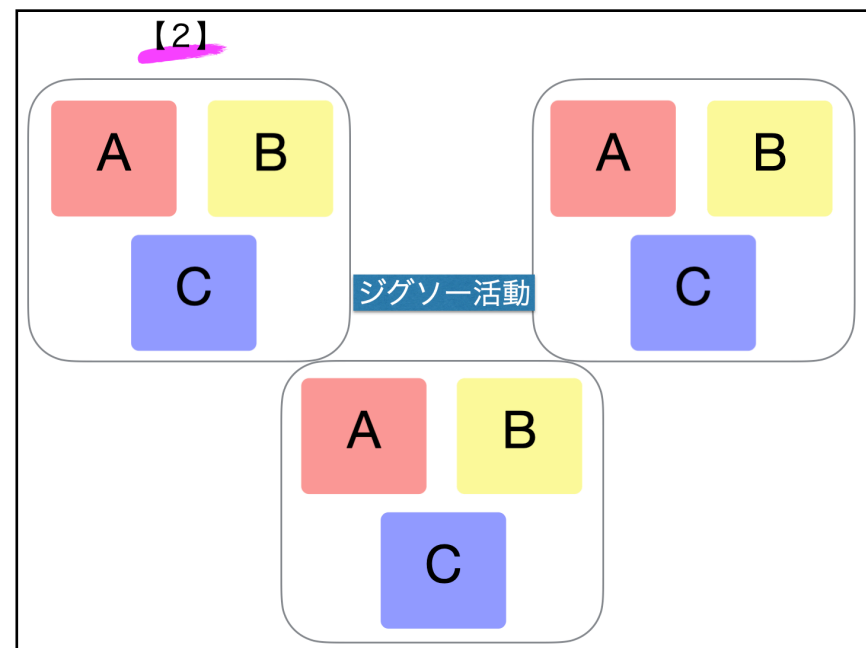
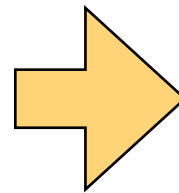
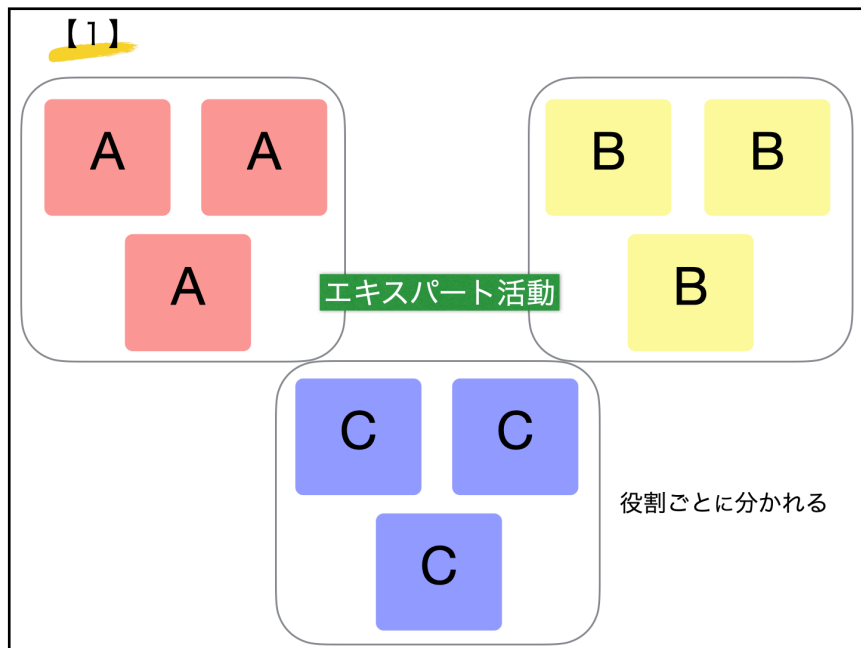
4) 先ほどの3つのグループのメンバーが混ざるように新しいグループを作ります。

5) 新メンバーでジグソー課題を解決してください。（25分）

6) それぞれのグループでどのような考えが出されたのかを交流します。（20分）



ジグソー型研修について



① エキスパート活動

- ・研修に参加した方々をABCの3つのグループに分けます。このときのグループ内の構成人数は何人でも良いです。
- ・それぞれのグループごとに別々の課題に取り組みます。
- ・30分経ったら、グループを解散します。

② ジグソー活動

- ・全てのエキスパート活動のメンバーが混ざるように、新たなグループを作ります。
- ・ジグソー活動では、エキスパート活動で得た知識をうまく組み合わせて、20分間でジグソー課題に取り組みます。

※**あらかじめ**担当を決めておくと、研修がスムーズです。

研修会の初めに見るムービー（20分間）

参加者全員で見ていただくことをお勧めします。

参加者へ連絡 (学校まるごとを除く)

Zoomの名前変更のお願い

選択したエキスパート + 所属 + 氏名

例 A 和歌山大学 附属太郎

研修用資料

児童・生徒の力を高めるための 評価

お手元に研修用資料をご準備ください

ようこそ！

学校まるごとオンライン合同研修へ

14:00から始まります。もうしばらくお待ちください。

和歌山大学教育学部 附属中学校

2020.11.13 (金) 14:00-16:00

<ムービーの内容>

- ・参加者が評価に関して関心のあること
- ・本校の子どもたちに学ばせたいこと
- ・評価の意義
- ・現行の評価に関する課題点
- ・ループリックの例
- ・努力を要する生徒への手立ての取り組み
- ・本研修の目的の確認
- ・各エキスパート課題の紹介



下のリンクからムービーをご覧いただけます。

<https://youtu.be/KGBo-s1ByEU>

このムービーは2020年11月13日に行った研修会の様子を収録したものです。

<エキスパート課題>

課題は**2つ**あります。それぞれの時間配分に気をつけて取り組んでください。

課題① (15分)

- 1) QRコードを読み込み、観点別評価の基本クイズに挑戦しましょう。<個人>
- 2) そのあとp.7-8の資料1を読みましょう。<個人>
- 3) 基本クイズに挑戦してわかったことや感想を共有しましょう。<グループ>



QRコードを読み込めない人は
↓こちらをクリック

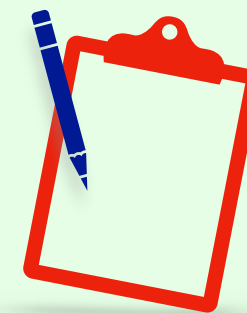
<https://forms.gle/jBJgXkLGEQhTevsM9>

エキスパート資料A

ちょっと確認

～普段の授業を思い浮かべて、ちょっと確認してみましょう～

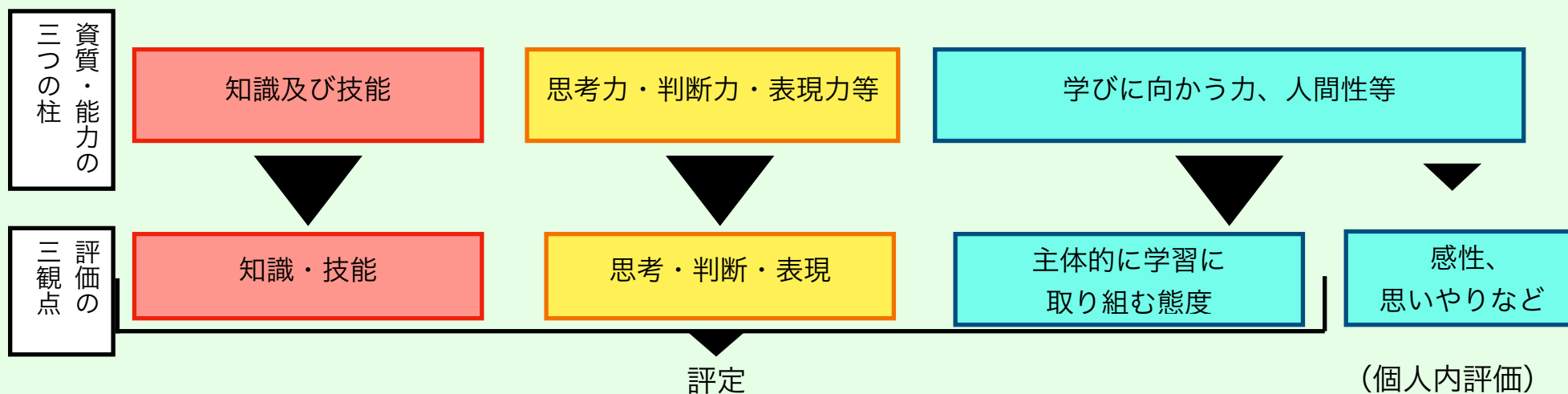
- ✓ 各教科等において「教員が何を教えるか」という観点が中心になっていませんか？
- ✓ 生徒が「何ができるようになるか」が明確ですか？
- ✓ 指導の目的が「何を知っているか」にとどまっていますか？
- ✓ 教科等を越えた指導改善の工夫を考えていますか？



3つの観点到再編成

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理（平成29年改訂）されたことを受けて4観点(国語：5観点)から3観点での評価に再編成。

教科・校種を問わず同じ観点になった



参考「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）

観点別学習状況の評価の3観点について

知識・技能

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものである。

各教科等の特質に関しては、例えば、芸術系教科の「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつなげていくものであることに留意することが重要である。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものである。

なお、小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月 文部科学省P37）における以下の指摘を踏まえることが重要である。

「『知識及び技能を活用して課題を解決する』という過程については、中央教育審議会答申が指摘するように、大きく分類して次の三つがあると考えられる。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を推測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程」

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

答申では、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる」とされている。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。

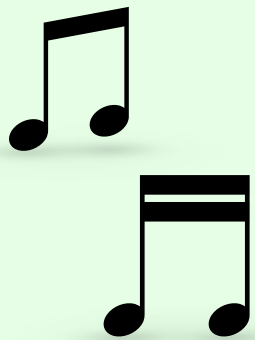
参考「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）

課題② 次の事例において、資料2を参考に生徒1・生徒2・生徒3の「主体的に取り組む態度」をどのように見取るかを考えましょう。(15分)

【事例】音楽科 1年生器楽「篠笛を吹こう」(第1時/全4時間)

【本時の目標】口の形・篠笛の角度・息の入れ方をそれぞれに試し、笛の音を鳴らすことができるようになる。

【授業の流れ】


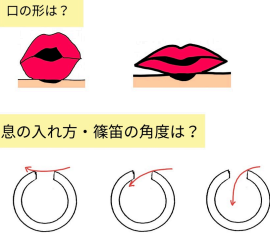

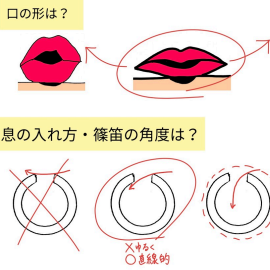

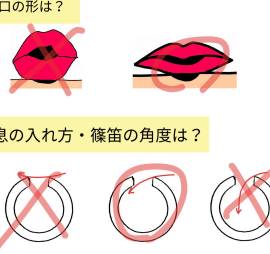


<p>導入 展開</p>	<p>篠笛を吹くときの姿勢と構え方を復習する。 「音がしっかり響く口の形と篠笛の角度、息の入れ方を見つけよう。」 次の3つの視点から音がしっかり響く吹き方を調べる。…【i】の場面 ①口の形 ②篠笛の角度 ③息の入れ方</p> <p>※響く音が出たときに、どのようにすればうまくいったかをメモさせる。 ※iPadのインカメラを使って自分の吹く姿を録画するなどして、確認させながら、練習する。 ※吹いている姿(口の形、篠笛の角度)を動画に撮り、共有する。 ※途中で、しっかりと音を出している生徒の動画を全体に紹介する。 ※適宜、指導者が生徒に対して助言を行う。</p>
<p>まとめ</p>	<p>アプリ：ロイロノートで振り返りを行い、動画と共に提出する。…【ii】 【iii】の場面</p>

【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【技能】 適切な口の形・篠笛の角度・息の入れ方を身につけ、篠笛を鳴らすことができる。</p> <p><参考> A 響く音で篠笛の音を鳴らすことができる。 B 篠笛の音を鳴らすことができる。</p>	<p>篠笛の音色を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音を出すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>口の形・篠笛の角度・息の入れ方によってどのように篠笛の音が変わるのかに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に篠笛の学習活動に取り組もうとしている。</p>

エキスパート資料2 (評価材料)

	[i] の場面 指導者の見取りと声かけ	[ii] の場面 提出された生徒の振り返りカード	[iii] の場面 提出された生徒の動画による「技能」の評価
生徒1 	<ul style="list-style-type: none"> 大変響く音を出すことができている。 音が出ると分かってからは練習をほとんどしていない。 指導者からどのようにすれば響く音が出たのかを考え、まとめるように声かけしたが、態度は変わらなかった。 	<p>音がしっかり響く口の形と篠笛の角度、息の入れ方を見つけよう。</p> <p>口の形は？</p>  <p>息の入れ方・篠笛の角度は？</p> <p>うまくいったときのコツをメモしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 息の入れ方を意識した。 感覚。 <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> 最初から音を出すことができました。次もこの調子で吹きたいです。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">しっかりと響く音を出すことができている。</p>
生徒2 	<ul style="list-style-type: none"> まったく音を出せていない。篠笛の角度を調整して、音を出そうと練習をしている。 指導者は、吹き入れる息の強さをどうすればよいだろうかと問いかけた。 	<p>音がしっかり響く口の形と篠笛の角度、息の入れ方を見つけよう。</p> <p>口の形は？</p>  <p>息の入れ方・篠笛の角度は？</p> <p>うまくいったときのコツをメモしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ふわふわ感じじゃなくて、勢い強く意識的によく。 <p><振り返り></p> <p>私は初め篠笛の角度が良くないから音があまり出ないと思い、角度を変えて練習していました。しかし、Dくんが吹いている動画と比べると、私の吹き方は弱すぎると思いました。息を徹底的に入れると少し音が出るようになりました。少し音が出るようになりました。次は息の強さに着目して練習したいです。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">息音が少し混ざるが音を出すことができている。</p>
生徒3 	<ul style="list-style-type: none"> 息音が混ざるものの、少し音を出すことができている。口の形の視点にこだわって何度もくり返し練習をしている。 途中で指導者が篠笛の角度はどうするのが良いかも試してみるように話をする。 	<p>音がしっかり響く口の形と篠笛の角度、息の入れ方を見つけよう。</p> <p>口の形は？</p>  <p>息の入れ方・篠笛の角度は？</p> <p>うまくいったときのコツをメモしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 少ししか音が出なかったので、分りませんでした。 <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の練習では少ししか音が出ませんでした。僕は口を横に引き方が良くないから音が出ないと思い、ずっとなら練習しましたが、結局変わりませんでした。次回も口の形に気をつける練習をしたいです。 	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">息音が混ざるが、音を出すことができている。</p>

👉 次のキーポイントを見て、自分の考えた見取りを振り返ろう。

＜主体的に学習に取り組む態度＞の評価を考える2つのキーポイント

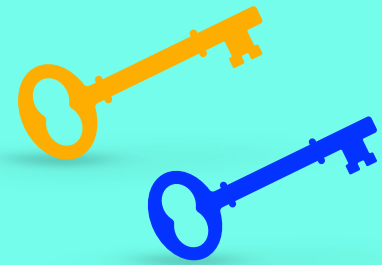
◎ 粘り強い取り組みを行おうとする側面

学習課題に対して粘り強く取り組んでいるか。

+

◎ 自らの学びを調整しようとする側面

自分の学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど。



※これらは相互に関わり合いながら立ち現れるもの。

※生徒の学習の調整が、知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導する。

観点別評価を考える参考資料

- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 国立教育政策研究所教育課程研究センター
 - * 校種別、科目別に発行。「第1編 総説」は校種で共通の解説、「第2編」は教科の「内容のまとめ」ごとの評価規準作成の手順、「第3編」は具体的な学習評価事例を掲載。
 - * 「第3編」では各事例にキーワードを挙げる。指導計画から評価の総括、3観点の具体的な見取り方、テストの工夫、ICTの活用など目的に応じて活用できる。
 - * 「巻末資料」あり。なお、WEB版では図版、写真の省略がある。必要な場合は市販版で確認されたい。



- 「学習評価の在り方ハンドブック」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyoku.html>



- 『中等教育資料』 文部科学省教育課程課（編集）

「特集」で評価に関わるものの一例を挙げる。上記の『参考資料』をふまえ、さらに具体的な実践案、評価方法のヒントが得られる。

- ・ 特集「学習評価及び指導要録の改善」（No.997（令和元年6月号））
- ・ 特集「中学校の学習指導と学習評価の工夫改善」
 - No.1009(令和2年6月号)国語、社会、数学
 - No.1010(令和2年7月号)理科、音楽、美術
 - No.1011(令和2年8月号)保健体育、技術・家庭、外国語
 - No.1012(令和2年9月号)総合的な学習の時間、特別活動

//// 関連資料 //////////////////////////////////////

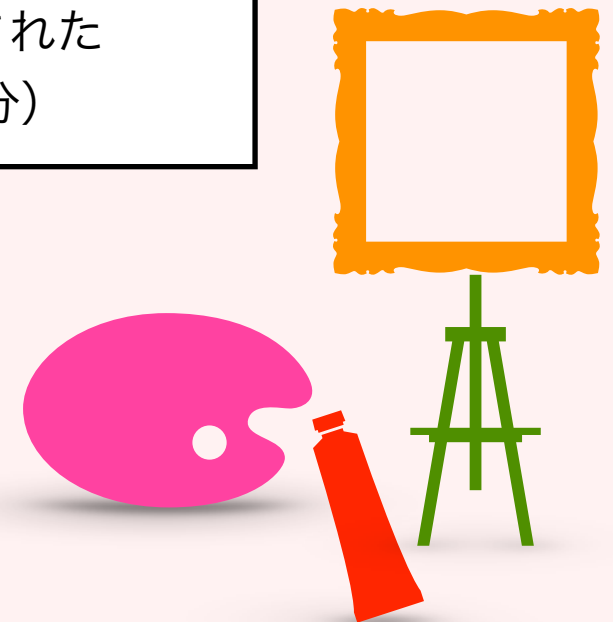
- ◆ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成31年3月29日付初等中等教育局通知）
- ◆ 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）

<エキスパート課題>

課題①-1 ループリックAを使って、生徒の成果物A～Cをそれぞれ評価しましょう。<グループ> (7分)

①-2 ループリックBを使って、生徒の成果物A～Cをそれぞれ評価しましょう。<グループ> (7分)

課題② 評価をして気がついたことを話し合い、出された意見をまとめましょう。<グループ> (15分)



エキスパート資料1

課題①-1 **ルーブリックA**を使って、生徒の成果物A～Cをそれぞれ評価しましょう。＜グループ＞（7分）

①-2 **ルーブリックB**を使って、生徒の成果物A～Cをそれぞれ評価しましょう。＜グループ＞（7分）

※評価が途中で、時間になったら次の課題に進んでください。

評価の観点は「思考・判断・表現」を想定しています。

ルーブリックA

評価項目	A	B	C
表現の工夫		見やすさを意識して、絵や文章の配置や配色を工夫している。	
選んだ理由		浮世絵を選ぶ観点を明確にして、作品を選んだ理由を記述している。	
作品の説明		浮世絵と関係の深い他の作品や芸術家について、その関係性を明らかにしながら記述している。	

ルーブリックB

評価項目	A	B	C
表現の工夫		浮世絵の特徴が分かりやすいように、レイアウトを工夫している。	
選んだ理由		浮世絵を選んだ根拠が明確で、その根拠が分かりやすいように工夫している。	
作品の説明		複数の立場から作品の特徴を捉えることができしており、分かりやすいように工夫している。	

そもそも「ルーブリック」ってなに??

ルーブリックとは、パフォーマンス課題を評価するときの質的な採点指針を示したものです。レポートや発表などのパフォーマンス課題では、子どもの自由な表現を引き出すことができますが、教師は成果物を評価するときに、質的な判断が求められます。ルーブリックの作成は、評価の際の基準を明確にする意味があります。また、ルーブリックをあらかじめ子どもに提示することで、学習の見通しを持たせたり、教師の意図を伝えたりすることができます。Bグループの活動では実際にルーブリックを使って評価をすることでよりよい評価について考えていくことを目的としています。

A評価・C評価の記述がないのはなぜ?

ルーブリックを作ったり、各評価の記述を読むことは最初は負担に感じるかもしれません。そこで、みなさんのルーブリックへの抵抗感を減らすために、今回はB評価のみを記述した簡易版ルーブリックを提示しています。A評価は「B評価よりもよくできているもの」、C評価は「B評価に届かないもの」という見方をすることで、従来のルーブリックと同様に評価をすることができます。

生徒に提示した課題とその成果物

〔生徒への課題〕

文化祭で展示する「浮世絵紹介ポスター」を作成します。好きな浮世絵を選び、模写し、絵を選んだ理由とその絵の説明をポスターにまとめなさい。

成果物A

歌川国芳

金魚だけでなくオタマシヤブや亀もシヤボン玉を見に集まっています

日本のポップカルチャー「Kawaii」の歴史は、こうして江戸時代の浮世絵の中に既に見ることが出来ます

シヤボン玉売りが町中をめぐって、子供達にシヤボン玉を売っている様子

玉や玉や

水中のあぶくをシヤボン玉に見たてたのは国芳の妙案ですね

歌川国芳 (1797-1861)

歌川国芳は、幕末に活躍した浮世絵師です。そのユニークな画風から、「奇想の絵師」などと呼ばれ、近年再評価の気運が高まり、国内外で展覧会が数多く開催され、広い世代で人気上昇中です。

金魚づくしシリーズは金魚をはじめとする水中の生き物たちを描き出し面白おかしく描かれた浮世絵で、国芳が得意としたいわゆる戯画です。笑い、走り、歌い、踊る金魚たちの姿は、見る人を思わず「カワイイ」と微笑ませるほど生き生きとしてコミカル。江戸時代後期には、金魚は庶民の間でもバブとして飼育されるようになりました。そんな自分のバブを描いた浮世絵に、江戸の子たちは夢中になったことでしょう。

成果物B

東洲斎写楽

江戸時代中期の浮世絵師。寛政6年5月から翌年の寛政7年1月にかけての約10か月間だけ活動し、その後忽然と姿を消した謎の絵師。

写楽の正体とは!?

江戸場に伝わる能役者の、「斎藤十郎兵衛」という説が最も有力とされている。また、「東洲斎」と並ぶかると、「斎東洲」(さいとうじゅう) = 「斎藤十」? というアナグラムになるという推測もある。

写楽に対する評価

国内では?
役者の美しさ、その役者や美しさ大衆こそが買収の求むた絵であり、内容の欠点までもを誇張した写楽の絵は不評であった。

海外では?
ドイツ美術研究者ユリウス・ムルトがその著書「Sharaku」の中で、「世界三大肖像画家」と称賛し、日本に浮世絵が高まった。

この作品を選んだ理由
この作品の作者である東洲斎写楽は、正体が不明で、活動期間もわずかの月日という謎に包まれた絵師だとして、もっと調べてみたいという思いが強くなり、写楽の代表作ともいえる、この作品を選ばれた。

思ふこと
写楽の絵は特徴として捉えた。素直でいい絵であったが、当時は差別評曲されたかた。それにも、自分の描きたい絵を描き続けた。自分らしさを突き進んだ写楽は、とても強い人だと思ふ。

鏡い形相で奴一平に迫る様子が表現されている。

写楽が描く各役者の手元は、その役柄や場面をリアルに写し出している。

当時、役者は家紋で見分けられており、三世大谷鬼次の紋は「くわいの鬼の字」。

写楽がプロデュースしたのは、江戸のヒットメーカーである。版元・萬屋重三郎だ。

成果物C

五拾三次之内猫之怪

ごじゃうさんのうちねこのかい

〔作者〕
歌川芳藤

作品解説

- 「五拾三次之内猫之怪」は、「辰上梅舟一代斬」の中に登場する化け猫をモチーフとした大判銀絵。
- タイトルにある「五拾三次」とは「秘道中五十三駅」のことであり、東海道五十三次を舞台に取り入れた先駆的な作品。
- 絵の中には、大小の猫合計9匹化け猫の顔之作、ている。
- 三毛の模様は微妙な陰影を浮かべながら、則ち赤い舌の舌を刺す。

評価記入欄（※書き込める場合は活用してください）

課題② 評価をして気がついたことを話し合い、出された意見をまとめてください。＜グループ＞（15分）

例えば、以下の点について、話し合ってみてください。

参加者同士で意見の分かれた
評価項目はどれでしたか？

ルーブリックAとBの文章の違い
により、評価のしやすさにどの
ような違いがありましたか？

どの項目が評価しやすかった
(or評価しづらかった) でしょ
うか？

このルーブリックを改良するな
ら、どのように直しますか？

ルーブリックで評価することの
メリットやデメリットをどの
ように感じましたか？

児童・生徒の力を高めるため
のルーブリックとはどのような
ものでしょうか？

● 「学びを促す評価を目指して ルーブリックの使い方ガイド」（教員用、学生用）

関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

(教員用) https://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/images/rublic_guide_faculty.pdf

(学生用) https://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/images/rublic_guide_student.pdf

※関西大学の許可を得て引用させていただいています。



* 「ルーブリックを活用するためには？」 「そもそもルーブリックとは？」といった点が、わかりやすくまとめられています。児童・生徒への説明の際も参考にできると思います。

● Rubric Bank <https://mmt4.cs.tohoku-gakuin.ac.jp/>

*ルーブリックを投稿・共有するサイトです。誰でも検索や閲覧ができるので、ルーブリックを作ってみたいけれどイメージがわからないという方は、このサイトでいろいろなルーブリックを見ることができるのでお勧めです。

● 『大学教員のためのルーブリック評価入門』

ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ著 佐藤浩章監訳 玉川大学出版部

* 「大学教員のため」と書かれていますが、ルーブリックの作り方について基本的なことから丁寧に書かれています。

● 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成31年3月29日付 初等中等教育局通知）

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/nc/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415196_4_1_2.pdf

*小学校と中学校の全ての教科の評価の観点表が表になって整理されています。

＜エキスパート課題＞ 課題①か②のどちらかを選択し、考えを共有してください。

中学1年生の1学期の終わりに、生徒Aへ成績表を渡そうと思っています。
資料1～3をふまえ、2学期へ向けて生徒Aの資質・能力（学びに向かう態度、知識・技能、
思考・判断・表現力）をどう育成していくか、その方法について考える課題です。

【課題①】

資料1の成績表はどのように手直しできるでしょうか？

所見の内容や成績表そのものの中身や様式など、自由に考えて意見交流してください。 **（グループ）**

【課題②】

2学期へ向けて生徒Aの資質・能力を育成していくために、具体的にどのような指導の方法が考えられるでしょうか？自由に考えて意見交流してください。

（グループ）

※課題①と②を同時に話し合っても構いません。



エキスパート資料C

資料1 生徒Aに渡す予定の中1・1学期の成績表

この成績表は単なる数字の記録に止まり、生徒Aは今後どうすれば良いのか、具体性に欠けます。今後、生徒Aの資質・能力（学びに向かう姿勢、知識・技能や思考・判断・表現力）を育成していくためにこの成績表はどのように手直しできるでしょうか？

		1年○組 △番 A
1学期評点：43点		
2学期評点：		
3学期評点：		
学年評点：		
学年評定：		
所見		
基本的な知識の定着が不十分である。授業には真面目に参加しているので、ていねいに復習し、力を定着させたい。		

評点換算	
5	85~
4	70~84
3	45~69
2	30~44
1	~29

資料2 担当教師による中1・1学期の生徒Aの記録

この記録から生徒Aがどのような生徒で、1学期はどんな様子だったかを読み取り、指導の改善を図りましょう。

教師によるAの記録

	小テスト1	小テスト2	小テスト3	備考
実施日	4/20	5/29	6/25	小テストは一問一答の10点満点。
Aの結果	6	4	2	用語やその意味など基本的な知識の定着に難がある。

	中間テスト	期末テスト	課題発表	備考
実施日	5/13	7/3	7/12	課題発表はグループワーク3時間とグループ発表を実施（A～C評価）
Aの点数	45/100	33/100	C	グループワークに消極的で、他のメンバーが調べた内容を口頭で発表した

生徒の実態

1学期途中の5月なかごろまでは授業に対し積極的で、発言も活発であったが、小テストや定期考査で結果が出せず、次第に消極的になっていった。基本的に真面目な生徒であり、授業のノートはしっかり取れているが、基礎的な部分において内容の定着は十分とはいえない。自分の知識や思考力に対する自信のなさからグループワークの際にはなかなか発言できず、他の生徒の意見に従う様子が見られた。授業中の教師の声かけには反応しており、学びたい意欲は持っているが、まちがいをおそれて発言が少なくなるなど、今は積極的に学びに対する意欲を見せる機会は少ない。

現在までのところで、Aに対し、教師から個別の働きかけは特に行っていない。担任とも相談したところ、全体に成績は振るわず、特に学びに対する意欲の観点から、保護者をふくめた面談も今後必要になるとのことであった。

資料3 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」第3章第3節の2の(1)

2 学習評価の充実

(1) 指導の評価と改善（第1章第3の2の(1)）

(1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

※小学校・高等学校・特別支援学校の「学習指導要領 解説 総則編」にも同様の記述があります

- **新学習指導要領に対応した学習評価（小・中学校編）** ITS独立行政法人教職員支援機構
（講師：文部科学省初等中等教育局主任視学官 長尾篤志）：学習指導要領編（校内研修シリーズ No.33）
https://youtu.be/-P__K1Q62I
＊児童生徒の学習を評価するためのポイントが分かりやすくまとめられています。
- 『さめきの授業 基礎・基本 ～子どもに学びのときめきを～ 実践事例集VI』 香川県教育委員会
「個に応じた指導」編 香川県教育センター
＊香川県の教育委員会で編まれた、実際の教育活動の実践集です。
- **コーチングのスキルと活用Ⅰ** ITS独立行政法人教職員支援機構（講師：別府大学教授 佐藤敬子）
学習指導要領編(校内研修シリーズ No.66)
<https://youtu.be/7yOth9t9UwE>
＊児童生徒の力を高めるためのコーチングの基礎を学ぶことができます。
- **児童生徒の協働的な学びにおけるICT活用** ITS独立行政法人教職員支援機構
（講師：放送大学 教授 中川一史）：学習指導要領編(校内研修シリーズ No.83)
<https://youtu.be/QtWF6rg9veo>
＊学習にICTを活用し、児童生徒の学びを深めていくためのポイントが整理されています。



ジグソー課題

「評価」を児童・生徒の**力を高めるため**のものとするためには
どうすることが大切でしょうか。

大切なことをグループで**3つ**考えましょう。

(25分間)

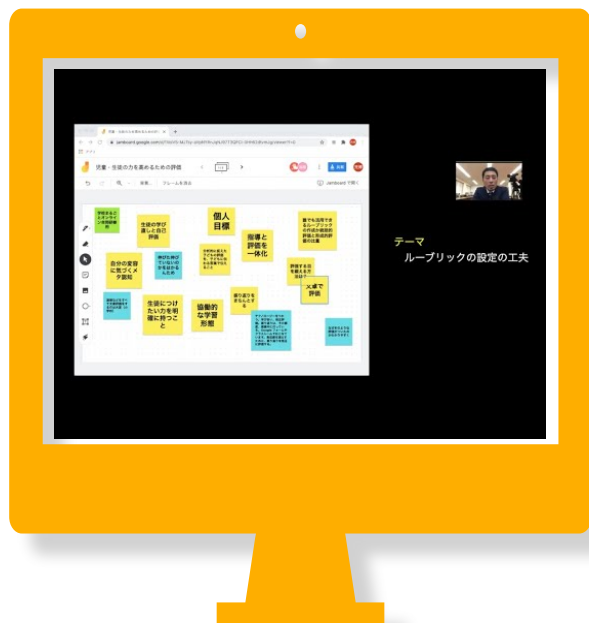
3つの**エキスパート課題**について考えてきたことをふまえて、
新たなグループで、この**ジグソー課題**に取り組んでください。

全体での交流

各グループでどのようなことを話し合ったのかを
全体で交流してください。

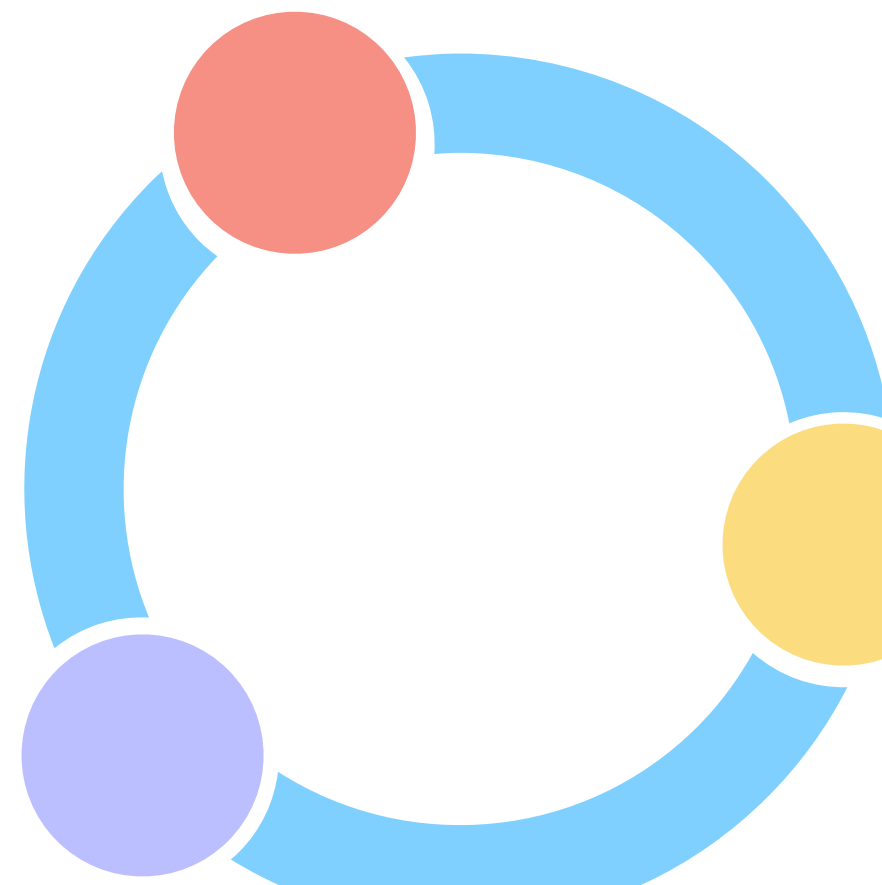
(20分間)

<参考>オンライン研修会の交流の様子



<https://youtu.be/B5ID9OGFSQU>

このムービーは2020年11月13日に行った
研修会の様子を収録したものです。



<紹介> オンライン合同研修を受けた先生方のアンケート集計（一部抜粋）

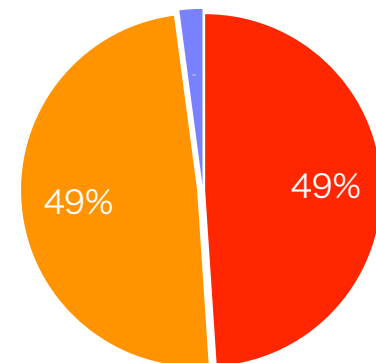
「評価」を児童・生徒の力を高めるためのものとするためには、どうすることが大切でしょうか。最も大切だと思うものを1つ教えてください。

- ・「できる」「わかる」ために改善のプロセスが与えられ、自己の学びをセルフコントロールして目標達成する指針とする。
- ・分析的に捉えた子どもの評価を、子どもに伝わる言葉で伝える。
- ・教師が授業や評価のプランをしっかり組み立てる。
- ・どのように評価するのか、その評価で生徒とどう関わるかをあらかじめ持つ。
- ・生徒が粘り強く取り組みたくなるような課題設定と明確で具体的なゴール設定。
- ・学び手が自分の変容に気がつくメタ認知の力。
- ・子どもの「頑張り」を認めてあげられるような評価をする。
- ・生徒に身につけさせたい力を明確にもつ。
- ・生徒自身が学習内容（めあて）に対して、自分の力がどのような状態であるのか（メタ認知）が明確に分かる評価をする。

今後、評価に関して、自分自身がどんなことを学ぶ必要があるとお考えですか？

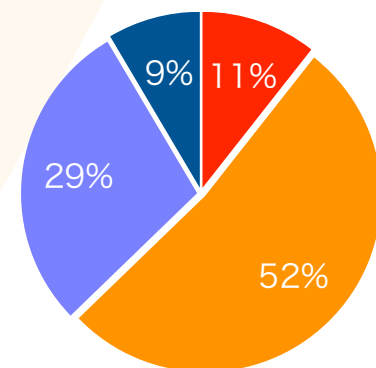
- ・教師側からの評価だけでなく、生徒自身の評価（自己評価）や生徒間での評価について。
- ・粘り強く取り組み、自分の力を調整していきたくなるような課題の設定の仕方。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点についての評価の計画や具体について。
- ・ルーブリックの先行事例をストックすることと、教員として限られた時間の中で評価できるようになるための感性を磨くこと。
- ・授業中の子どものつぶやきや変容を見取る力
- ・他の教科の評価を学ぶ。
- ・ICTと評価をどのように繋げていくか。
- ・生徒の成果物を評価するさいに、より細かく正確な評価が行えるような評価基準をどう設定していくか。

今回の研修を受けてどうでしたか？



● 大変学べた ● 学べた
● 少し学べた ● あまり学べなかった

評価に対する考え方に変化はありましたか？



● 大変変わった ● 変わった
● 少し変わった ● あまり変わらなかった

その他の結果は、次のページをご覧ください。

研修で学んだことのみんなの集計結果
Google フォームより



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe583aFV8VfaRUQvq_xuOUF0YAS2uzFuCvHby1Z2lnEDevFew/viewanalytics

評価で大切なことについてのみんなの意見
Google Jamboardより



<https://jamboard.google.com/d/1VoiV5-MJTsy-aVpNYRnJqNJ97T3QFCi-0Hh62dtvmJg/edit?usp=sharing>

終わりに

全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三本の柱で再編成されたことにより、観点別学習状況の評価について、全ての教科において3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）になりました。このことにより「指導と評価の一体化」に向けて進みました。それというのも、今回の研修で学んだように、日々の学習の場面において、どのような資質・能力を高めるのかを授業者が意識して授業をして、適切な評価をし続けることが、子ども達の力を高めることにつながると考えられるからです。授業者がどんな資質・能力を高めるのかを意識しておけば、例えば、子ども達がつまづきそうになったときに、どこをどうしたら良いのかや、どんな風に改善をしたら良いのかについて、適切に判断して対応できたり、子ども達自身にとって適切なタイミングで評価してそれを伝えることで、彼らのもっと学びたいという意欲を高めることにつながります。

今回の研修を終えて、新たに気づいたことやこれからさらに学びたいと思ったことはあったでしょうか。校種や教科に関係なく話し合うことで、自分なりの評価に対する考え方に変化があったでしょうか。そして、それらは明日からの授業等で児童・生徒の指導に活かせるものであったでしょうか。これまで評価というと、通知表の評定のように、日々の学習の頑張りの成果といった総括的評価のイメージが強かったかも知れません。しかし、適切な評価や学び直しにより、児童・生徒の力を高め、それぞれの良さを伸ばすことができれば、過ちに対して過剰に反応しすぎない、お互いに尊重しあえるような社会の形成にもつながると考えられます。

今回の研修は、評価に対する考え方を深める第一歩にしかありません。それぞれの先生方が研修の中で感じたことをたくさんの先生方と共有したり、評価する目を鍛えるためにも、普段からお互いに授業を見合い、どのように評価をするべきなのかを話し合ったりすることが授業力を高めることには重要であると考えています。

研究主任 矢野充博

学校まるごと合同オンライン研修 ミーティングメンバー

<和歌山大学教育学部附属中学校>

矢野充博 谷口英治 那須祐哉 境原周太郎 流川鎌語

<学外メンバー> ※敬称略

田中洋美 (梶山女学園高等学校)

藪 哲士 (有田市立保田中学校)

野中 潤 (都留文科大学)

宮田好展 (洗足学園小学校)

高田木実 (兵庫県加古郡播磨町立蓮池小学校)

内田 卓 (つくば市立吾妻小学校)

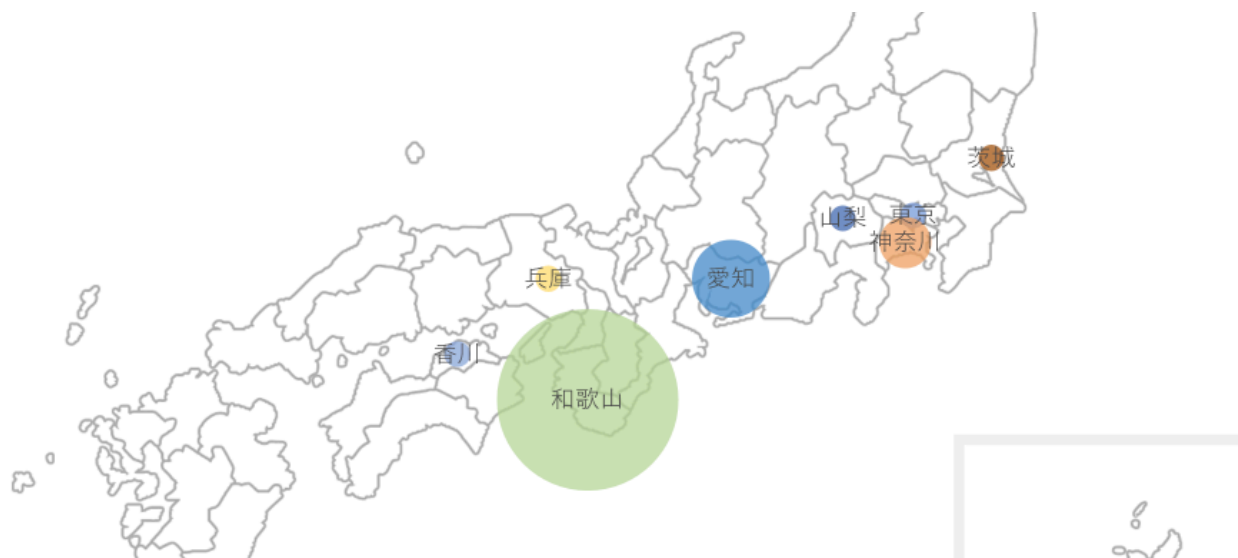
南 洋平 (和歌山県立粉河高校)

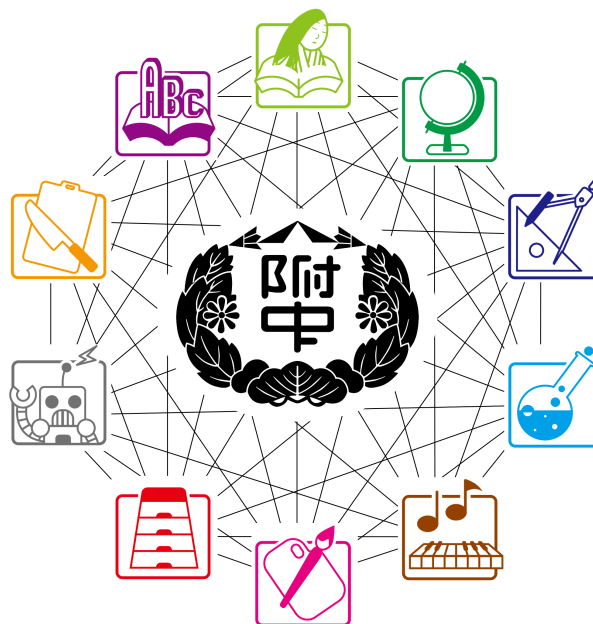
水山哲之介 (横浜市立寛政中学校)

中川琢雄 (名古屋経済大学市邨中学校)

矢田 修 (名古屋経済大学市邨中学校)

筒井將隆 (香川県立高松養護学校)





デジタルブック版が必要な方は
こちらから



Apple Books版



PDF版

研修用資料

『児童・生徒の力を高めるための評価』

2020年12月 発行

和歌山大学教育学部附属中学校

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1丁目4-1

【TEL】 073-422-3093

【FAX】 073-436-6470

【mail】 fuzokujr@center.wakayama-u.ac.jp

【Web】 <http://www.ajhs.wakayama-u.ac.jp/>